

大学キャンパスの外部コモンスペースの在り方に関する研究
— 滞留行動に着目して —

A Study about the Ideal Method of Outdoor Common Space in University Campus

-Pay Attention to People's Stay Behaviors-

5. 建築計画 - 3. 計画基礎・環境行動・行為/経路探索・
使われ方
大学キャンパス 外部コモンスペース 滞留行動

正会員 ○中山裕章
同 加藤彰一

NAKAYAMA Hiroaki
KATO Akikazu

1. Abstract

The student life in university campus is included in not only the studies in lecture room and laboratory but also the activity in the other campus facilities like outdoor common space.

So, outdoor common space is essential to take a rest for a change of pace, to deepen friends and acquaintances for student.

Therefore, on this study, analyze and compare between outdoor common spaces in Campuses. The purpose of this study is to show composition of outdoor common spaces to stay behavior.

2. はじめに

大学キャンパスでは、機能的に様々な建物が必要とされ、それと同時に、外部空間が生じる。このような外部空間は、建築を設計した後に残された単なる屋外空間として捉えるのではなく、積極的にデザインする対象として考えられるべきである。

このように、キャンパスの外部空間はある意味では最もキャンパスらしさが具現化されている場所の一つであるといえる。

また、大学キャンパスにおける学生生活は、講義室や研究室における学業だけではなく、大学での経験を豊かなものにする他のキャンパス施設(主に外部コモンスペース)におけるアクティビティも含まれる。

よって、キャンパスの外部空間は、学生が休息や気分転換をしたり、思索したり、交友関係を深めるには不可欠である。そこで、外部空間の利用方法や振る舞いの原因を明らかにすることを目指し、キャンパスの外部コモンスペースにおける学生のアクティビティについて研究していく必要がある。

そこで、本研究では大学キャンパスの外部空間の分析、比較を行い、滞留行動に適した外部空間の構成を明らかにすることを目的とする。また、コモンスペースの現状

を調査することにより、計画に必要な知見を得ることも目的とする。

3. 調査方法

調査は、3大学の建築外部空間の分析、比較を行う。また、目視と写真撮影による観察調査によって、大学キャンパスの外部コモンスペースにおいて見られる学生の滞留行動について、場面抽出を行う。本研究では、事例として、三重大学、名古屋商科大学、愛知工業大学八草キャンパスの3つの大学キャンパスを取り上げ、比較対象とします。

表1 調査概要

調査場所	調査日時
三重大学	2009年10月16日(金)14:30~16:00
名古屋商科大学	2009年10月22日(木)15:30~17:00
	2009年10月30日(金)14:00~15:00
愛知工業大学	2009年10月30日(金)15:30~16:30

4. 事例分析・比較

■事例1 三重大学

三重県唯一の国立大学である。キャンパス全体を支配する一本の強い主軸は無いが、部分的な副軸が数本あり、キャンパス内の建物は学部ごとにいくつかに分類されている。キャンパス中央付近にランドマーク的存在である講堂が位置しています。また、附属病院があり、学生以外にも様々な年代の人が訪れる。

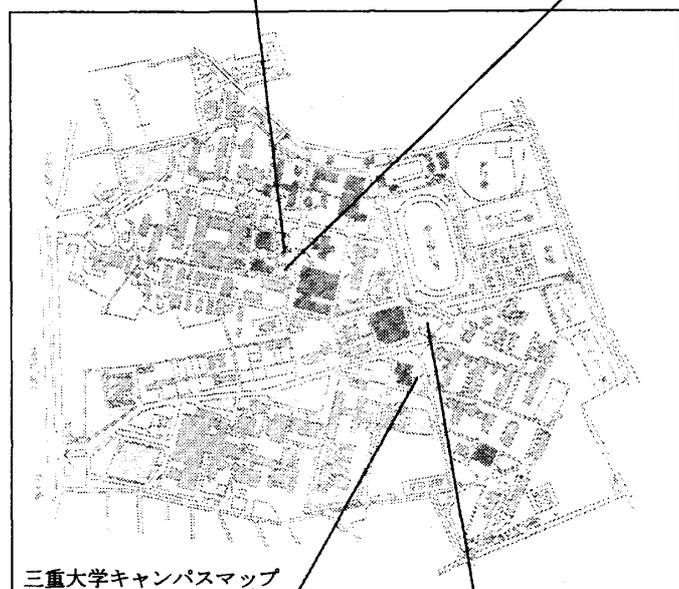
表2 大学概要(2009年5月1日現在)

大学名	三重大学
学校種別	国立
設置	1949年
所在地	三重県津市栗真町屋町
学部	人文学部、教育学部、医学部、工学部、 生物資源学部
総面積	約53万㎡
生徒数	学部6230人、大学院1174人、専攻 科17人
教職員数	715人

図1 第一食堂前



図2 図書館前



三重大学キャンパスマップ



図3 コンビニ前



図4 講堂前

図1は第一食堂前の芝生広場である。テーブルとイスが配置されており、複数人での利用が見て取れた。

図2は図書館前のオープンスペースである。灰皿が設置されているため、喫煙による滞留者が非常に多かった。

図3はコンビニの前である。テーブルとイスが配置されており、テイクアウトしたものを食べたり、談笑など複数人での利用が多く見られた。

図4は講堂前の芝生広場である。ベンチが配置されており、休憩、飲食などが見られた。

三重大学は、最寄駅である近鉄江戸橋駅から徒歩で約15分のところにあり、また、広大なキャンパスなため、自転車利用学生が非常に多く、キャンパス内には無数に自転車が駐輪されている。しかし、駐輪所の整備があまり行われておらず、キャンパス内の景観を乱している。

それらの整備をすることがコンモンスペースの充実のための第一歩だと考えられる。

また、芝生広場が多く点在するが、手入れが行き届いておらず、芝生に直接腰を下ろす人がいないのが現状である。手入れの行き届いた芝生広場の実現が、コンモンスペースの充実につながると考えられる。

また、広大なキャンパスであるにもかかわらず、案内標識・案内看板などが非常に少なく、ウェイファインディングの観点から見ると、わかりにくさを感じるキャンパスである。

■事例2 名古屋商科大学

広大なキャンパスは起伏に富んだ丘陵で、南になだらかに傾斜したパノラマの視界が開かれています。建物が配置されるゾーンはキャンパスの西側に当たり、西側に連なる丘陵と東側に連なる丘陵が大きく南に傾斜している。中央部は南北に長い谷間を形成していて、その南側には二つの池が豊かな水をたたえている。

竹中工務店の設計により計画されたキャンパスは自然ゾーン、スポーツゾーン、交歓ゾーン、広場ゾーン、教育ゾーンの5つに大きく分類される。全キャンパスのほぼ1/4に当たる約15万㎡の部分にスポーツゾーンを除く4つのゾーンが一つのコミュニティとして自然環境を通して計画されている。コミュニティを結ぶループを最も重要な媒体としてキャンパスに投入している。ループはキャンパスの幹であり、人々の出会いの場であり、建物のプロムナードであり、自然に触れ合う道であり、あらゆる情報が交換される場である。

また、キャンパスの外部空間には池があり、高い親水性を有しています。このようなキャンパス内の親水空間が学生、教員にとっての憩いの場となっています。

同じ敷地内に光陵女子短期大学がある。

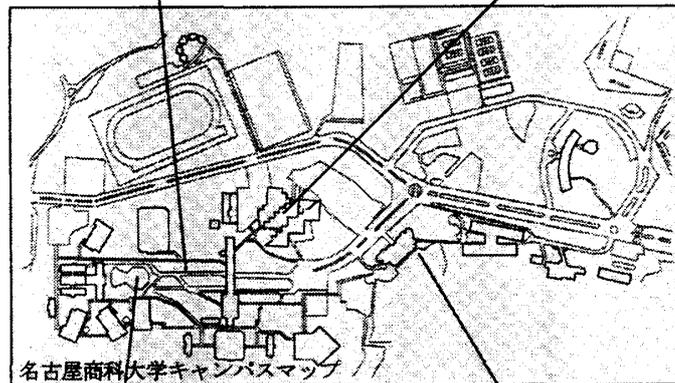
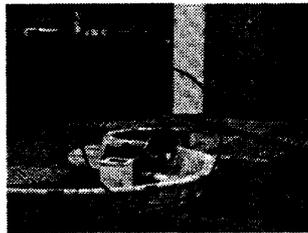
表3 大学概要(2009年5月1日現在)

大学名	名古屋商科大学
学校種別	私立
設置	1953年
所在地	愛知県日進市米野木町
学部	経済学部、経営学部、商学部、 コミュニケーション学部
総面積	約60万㎡
生徒数	学部3711人、大学院325人

図5 コモンスペース



図6 学生食堂前



名古屋商科大学キャンパスマップ



図7 広場



図8 総合語学教育センター屋外テラス

図6は学生食堂とクラブハウスの間にあるオープンスペースである。ベンチ、灰皿等が配置されており、植栽、親水空間もあり、多くの滞留者が見られた。

図5、6からも分かるように名古屋商科大学におけるベンチ・イスは様々な形態をしており、使用者に多様な使い方をもたらす。

名古屋商科大学は、親水空間、芝生などの維持管理、コモンスペースの充実が目を見張るものがあるが、案内標識・建物標識があまり設置されておらず、ウェイファインディングの観点から見ると、分かりにくさを感じるキャンパス空間なので、その点は改善の余地があると考

えられる。

■事例3 愛知工業大学 八草キャンパス

キャンパス全体を支配する一本の強い軸があり、ほとんど全ての建物が1群としてまとまっている。

工業大学ということもあり、全学生数に占める男子学生数の割合が高く、そのため外部空間に滞留する人が他大学に比べ、多い。

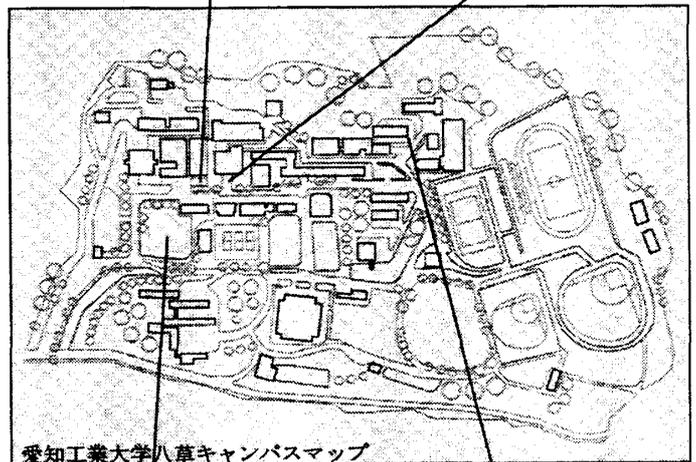
表4 大学概要(2009年5月1日現在)

大学名	愛知工業大学 八草キャンパス
学校種別	私立
設置	1959年
所在地	愛知県豊田市八草町
学部	工学部、経営学部、情報科学部
総面積	約65万㎡
生徒数	学部5766人、大学院242人
教職員数	263人

図9 AITプラザ前



図10 愛和会館前



愛知工業大学八草キャンパスマップ



図11 沈砂池

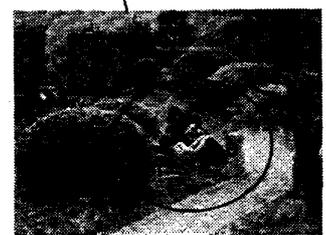


図12 4号館前

図9はAITプラザと呼ばれるショップやレストランなどが入った建物の前のオープンスペースである。テイクアウトしたものを食べたり、友人との談笑など、複数人での利用が多く見られた。

図10は愛和会館と呼ばれる学生食堂や理容室が入った建物の前のオープンスペースである。テーブルとイスが配置されており、休憩、談笑などの滞留行動が多く見られた。

図12は4号館前のスペースである。パイプイス、灰皿が配置してあり、喫煙、休憩、談笑など様々な行為が見られた。

愛知工業大学は、案内標識・案内看板が至る所に設置されており、AITプラザというキャンパスのランドマーク的存在の建物もあり、また、キャンパスの軸(メインストリート)が明確であるため、ウェイファインディングの観点から見ると、三重大学よりは分かりやすいキャンパス空間と言える。

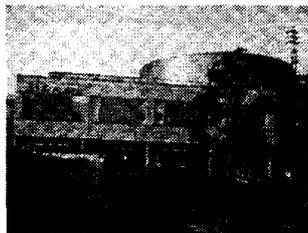


図13 AITプラザ
愛知工業大学八草キャンパスのランドマーク的建物

■親水空間の滞留者への影響

名古屋商科大学のキャンパスの外部空間には池があり、高い親水性を有しています。(図7、8)

キャンパス内の親水空間が学生、教員にとっての憩いの場となっています。

また、図7の池周辺が階段状の形態となっているため、段差を利用しての着座滞留を引き起こさせる。またベンチも配置されているため、着座滞留者が増える。

このように、親水空間、段差、ベンチ、加えて植栽などの滞留行動を契機づけるであろう要素がいくつも混在するため、滞留者が非常に多くなると考えられる。

また、愛知工業大学八草キャンパスにも同様に池が存在するが、沈砂池²⁾(ちんさち)と呼ばれる池であるため、維持管理があまり行われておらず、前出のものとは比べるとききれいな親水空間だとはとても言えず、親水効果が低く、滞留行動があまり見られなかった。池などの水辺空間には高いリラックス効果が期待できるだけにとても残念である。大学キャンパス内の親水空間の在り方について、再考の余地があると考えられる。

三重大学には親水空間と呼べる空間が無いので、親水空間を整備することで、外部コモンスペースの充実を図

ることを検討していただきたい。

■囲み空間の滞留者への影響

図5のコモンスペースは芝生の緑がきれいで、とても気持ち良い空間ではあるが、あまりにも開けた空間であるため、落ち着き感に欠けると考えられる。しかし、あまりに囲まれた、閉鎖的な空間というのも快適には感じない。

つまり、人にとっては開けすぎておらず、囲まれすぎてもいない、ある程度の囲われ感が落ち着きや快適さを与えると考えられる。

5. まとめ

本研究では、滞留行動の観点から大学キャンパスの建築外部空間の分析、比較を行なった。

その結果、キャンパスの外部空間は、学生が休息や気分転換をしたり、思索したり、交友関係を深めるには不可欠な場所である。このような行為には、ベンチ、階段などの段差、芝生など容易に腰を下ろせる場所が必要である。

また、樹木、植栽、芝生など緑を感じさせるもの、池などの水辺、このような自然を感じさせるものの存在は、コモンスペースを快適で、魅力的なものに変え、リラックスできる要因となるため、滞留行動を促すことが分かった。

そして、そのような滞留行動を契機づける要素が1つ2つと増えれば増えるほど、滞留場所として適していることが分かった。

今後は、新しいコモンスペースの在り方の提案を目標に滞留行動やウェイファインディングの観点から、調査・研究を進めたい。

注)沈砂池：河川から上水・発電などの用水を引き入れる場合、土砂を沈殿させるため取水口の近くに設ける人工池。

[参考文献]

- 1) 日本建築学会 1993年度日本建築学会大会(関東)研究懇談会資料
キャンパス外部空間論
- 2) 三重大学 HP <http://www.mie-u.ac.jp/>
- 3) 名古屋商科大学 HP <http://www.nucba.ac.jp/>
- 4) 愛知工業大学 HP <http://www.ait.ac.jp/index.html>